



4月3日のご来場ありがとうございました！



友の会の皆様こんにちは。室内合奏団クレメンティア・第1回コンサートには、当日券のお客様も含めて650名を超える方々にご来場いただきました。ほんとうにありがとうございました。心から感謝申し上げます。

当日の会場は、演奏された音楽そのものを通じて、ステージと客席が一体となりました。演奏された名曲の数々は、「人類が持ち得た音による情と知の精緻な融合」といっても過言ではないでしょう。演奏者は、その表現に集中し、聞く人々には日常生活の中で味わうことのない、とりわけ美しい何か、言葉に言い表すことのできない何かを期待して、コンサートは始まります。その何か、つまり作品の有り様を演奏者が表現し尽くし、聴く人々がそれを確かに受け止めた時、ステージと客席は音楽によって結ばれます。当日のコンサートは正にその実現でした。私共にとって、この上ない最高のよろこびです。

室内合奏団クレメンティアの技倆と集中力、コンサートの運営に携わった世話人、サポーターの努力はもちろんですが、今回際立った存在感を示したのはベニア板60枚でした。この反響板の威力は予想以上でした。初めてご覧になった方はギョッとしたかもしれませんが、とりあえず音優先ということでご勘弁を…。(皆さん同様、私共も我孫子市民会館大ホールが音楽の生演奏には全く不向きであることは重々知っています。音質の善し悪しよりも音そのものが客席に届かない構造が最大の問題です。私もこの我孫子に音楽ホールがあったら良いのに、と願う一人です。しかし、刻々と過ぎてゆく年月を想うにつけ、何もせず待っているわけにはいきません。現在の状況で少しでも改善を重ねて、音を出してゆくしかないのでは…。そうすることが私共にとっても皆さまにとっても、どんなホールが必要なのか、具体的な、また明快な答えを得られる糧となる、と感じています。)

さて、ベニヤ板60枚の効果は絶大で、全ての音が、とりわけ低音部、中音部が実在感をもって会場に響き渡りました。そのため、全体のバランスが素晴らしく作曲者の意図が実際の音となって客席に届けられました。楽章の合間、客席を支配した息を飲むような期待感に満ちた緊迫した静けさを、私は一生忘れないでしょう。

最近では東京にも地方にも、少しずつ音楽専門ホールが出来つつあります。しかし、なぜか高音域の周

波数の伸びばかり目立つ、相対的に中、低音域が遠く鈍い、腰の据わらない音のホールばかりで少しガッカリです。我孫子市民会館大ホールは確かに欠点ばかりで、これ以上はお手上げです。しかし今回実現したバランス…これは日本中の人に聴かせたいものです。

小林道夫氏は後半のプログラムを客席で聴いておられました。アンコールが終わって舞台裏に戻れると、楽器を片づけている弦楽器奏者に向かって「まるで極彩色、総天然色でしたね！」と感想を述べておられました。「色」ということと言えば、聴く人によって音色の感じ方は千差万別だと思います。ここで小林道夫氏の言う「色」は、高音も中音も低音もそれぞれ支え合って生まれる、まさに作品そのものの持つ「色」だったのでは？

ふれあい工房の皆さん、よろこんで下さい。皆さんは室内合奏団クレメンティアと一緒に、天下の「小林道夫」を唸らせたんですから！

さて、アンコール曲について。グリーグ作曲「二つの悲しき旋律」の2曲目「晩春」でした。グリーグは「ピアノ協奏曲」や組曲「ペール・ギュント」がよく採り上げられる北欧の作曲家です。この「二つの悲しき旋律」はグリーグ自身が最も気に入っていた曲だったそうです。後半のプログラム…、モーツァルト、そしてモーツァルトに憧れていたチャイコフスキー（弦楽のためのセレナードは、モーツァルトの作品にたくさんある「セレナード」への思いを込めて作曲したに違いありません）、その気品と色彩感を打ち壊さないアンコールとして、この曲を選びました。同時に「二つの悲しき旋律」は今後のプログラムの中に登場させる「予告編」も兼ねています。

今、私は第2回コンサート（10月10日）の準備に勤めています。第2回は前半バロック、後半古典で9人編成、変わった音色のコンサートにしたいと考えております。乞うご期待！

p.s. ステージ上の2本のマイクは、録音用のものでした。3本吊りのマイクを使いたかったのですが、故障中でやむを得ずステージに立てました。皆様のお聴きになった音は、音響機器による増幅は一切行わないナマの音です。(団長 湯川和雄)



◆室内合奏団クレメンティア 第2回コンサート◆

日時：2005年10月10日（祝）14時開演（13時30分開場） 我孫子市民会館大ホール

曲目：カノンとジーク二長調（パッヘルベル）
フルート・ソナタ短調（J.S.バッハ）
フルート協奏曲第4番ト長調（ヴィヴァルディ）
弦楽五重奏曲ト短調（モーツァルト）
フルート協奏曲ト短調（シュターミッツ）

出演：湯川和雄（フルート） 加藤えりな・田中絵理子（ヴァイオリン） 中山良夫・安藤裕子（ヴィオラ）
松本ゆり子（チェロ） 田中洪至（コントラバス） 田村仁良（テオルボ） 平野智美（チェンバロ）



入場料（全席自由）：前売り：一般…3,500円 小中高生…1,000円 友の会会員券…3,000円
当日：一般…4,000円 小中高生…1,000円

主催・お問い合わせ：室内合奏団クレメンティア友の会（Tel：04-7187-0960 山中）



★クレメンティア友の会会員の皆さまへのお誘い★

クレメンティア in モダン 室内合奏団クレメンティアの賛助法人会員「京北スーパー」の関連会社、イタリアンレストラン「モダンタイムス」より、同レストランの25周年記念「音楽と料理とワインを楽しむタベ」に、ぜひ友の会の皆様にご参加いただきたい旨、店長さんよりお誘いをいただきました。選り抜かれたワインとおいしい料理、更にサービスが期待されます。音楽は湯川和雄（Fl.）加藤えりな（Vn.）梯孝

則（Va.）松本ゆり子（Vc.）でモーツァルトのフルート四重奏を中心に！演奏する方も飲みながら食べながらですので、きっと面白い？演奏になりそうです。

日時：6月10日（金） 19:00～

会場：モダンタイムス（柏駅東口よりサンサン通りを徒歩3分左側）

会費：10,000円 ※定員30名様

予約：モダンタイムス Tel:04-7163-2528

我孫子市民フィルハーモニー管弦楽団第24回定期演奏会 ～旋律に震え、哀愁に浸る～

日時：2005年6月12日（日） 14:00開演（13:30開場）

場所：我孫子市民会館ホール 全席自由 入場料：1,000円（前売りペアチケット1,500円）

指揮：柳澤寿男 ピアノ独奏：吉村美華子 管弦楽：我孫子市民フィルハーモニー管弦楽団

曲目：ポロティン／だったん人の踊り シューマン／ピアノ協奏曲 チャイコフスキー／交響曲第6番「悲愴」

予約・お問い合わせ：橋本（Tel:04-7184-5698） <http://orchestra.musicinfo.co.jp/~acpo/index.html>

今回はロシアもの中心のプログラムで、聴き覚えのある、大変美しいメロディーの名曲ばかりです。現在我孫子フィルを毎回指揮していただいている柳澤寿男氏は昨年ロシアで高い評価を得ているなど、ロシアものを得意としていますし、さらに柳澤氏は今年秋からマケドニア国立歌劇場の首席指揮者就任が決まっております、ますます注目度が高まっております。

ソリストは4年ぶり2回目の登場の吉村美華子氏！我孫子フィルも柳澤氏の高い要求に応えようと懸命に練習に励んでおります。どうぞご期待ください。（友の会事務局 田中 浩…我孫子フィルフルート奏者）

湯川和雄と弟子たちによるフルート&フルート&フルート「バロックの巨匠 バッハとテレマン」

日時：2005年7月29日（金）18:00開演 会場：我孫子市民会館大会議室

出演：湯川和雄 三沢美佳 佐藤由香理 斉藤真由美 長堀美佳 稲葉理恵（フルート）

土井瑞穂（チェンバロ） 松本ゆり子（チェロ） ★全自由席 2,000円

連絡先：Tel 04-7183-0444、Fax 04-7186-2555（湯川）

音大卒業後も鍛錬を続け、ますます深みを増している弟子たちと共にバッハとテレマンの名曲の数々を演奏することは、私にとってこの上ない喜びです。なお、会場の大会議室にまたまた仕掛け？を致します！（湯川 和雄）



★★サポーターになってください！★★

室内合奏団クレメンティア友の会活動を支えるサポーターを広く募集しています。演奏会を開くまでに必要な会員の皆さんへの会報配達、郵送作業、チケット販売の諸手続など、やることはいっぱい！事務局は人手がまだまだ不足していますので、あなたのお力が必要です。可能な時間に可能な仕事を、ご自分の生活ペースを守ってクレメンティアを手伝っていただけませんか？サポーターになっていただける会員の方は、右記までご連絡下さい。

Eメール：clementia_fan-owner@yahooogroups.jp

Tel・Fax：04（7188）1673

〒270-1132 我孫子市湖北台2-7-25

室内合奏団クレメンティア友の会事務局長 山下 広之

※会員の皆さんがご住所やメールアドレスなどを変更した場合は、必ず事務局までお知らせください。

※今回から、会報が隔月発行となりました。次の会報は7月です。よろしくご了承ください。